

浜松市の

みちづくり計画

第3期（令和7年度 ≫ 令和16年度）

Hamamatsu City Road Planning



土木事業が普段の暮らしを明日へ絆ぐ。

目 次

1 計画の概要	… P1
◆背景・目的	… P1
◆みちづくり計画の目標年次	… P2
◆みちづくり計画の位置付け	… P2
◆みちづくり計画の構成	… P2
2 現状と課題	… P3
◆浜松市の概況	… P3
◆浜松市の道路予算	… P4
◆浜松市の人口と都市機能の維持	… P4
◆浜松市の産業	… P5
◆浜松市の観光・にぎわい	… P7
◆浜松市の交通特性	… P9
◆浜松市の交通事故の特性	… P11
◆浜松市の災害に関する特性	… P15
◆浜松市の維持管理に関する特性	… P17
3 浜松市の将来像・関連計画	… P19
◆将来像（上位計画）	… P19
◆関連計画	… P19
4 市民ニーズ	… P21
◆市民ニーズ（アンケート調査）	… P21
◆道路に関する自治会要望	… P22
5 みちづくりの方向性	… P23
6 みちづくりの基本方針	… P33
7 道路整備プログラム	… P35
◆実施候補（メニュー）	… P35
◆評価指標	… P36
◆事業予定箇所	… P37
8 参考資料	… P53
◆策定経緯	… P53
◆用語集	… P56

1 計画の概要

◆背景・目的

現行の「浜松市のみちづくり計画」は、平成29年度から令和8年度の10年間を計画期間とし、既存の道路を有効に賢く「つかい」、真に必要な道路を「つくる」とともに、安全・安心で住みよいまちを「まもる」観点から、5つの基本方針を軸に、国土交通省、静岡県、NEXCO中日本などの関係機関と連携し、三遠南信自動車道など、高規格道路*の整備促進やインターチェンジへアクセスする道路整備、自転車通行空間*の整備、交通安全対策、橋梁の耐震化や道路斜面对策、橋梁などの道路施設の維持管理を着実に実施してまいりました。

こうした中、**近年、自然災害が激甚化*・頻発化**しており、本市においても**土砂災害や路肩崩壊が多発**し、市民生活に多大な影響が出ていることや、令和6年能登半島地震において発生した、斜面崩壊等による道路被害は甚大なものであり、本市の中山間地域においても同様の被害が懸念されることに加え、**南海トラフ巨大地震の発生も予測**されているため、**災害に強い道路ネットワーク機能の強化が急務**です。

人身交通事故件数については、着実に減少しているものの、依然として継続している政令指定都市の人口10万人当たりの**人身交通事故件数ワースト1からの脱却が急務**です。

また、橋梁など膨大な道路施設については、**着実に点検・修繕を実施**しておりますが、**道路施設の長寿命化*やコスト縮減**に向けて、**損傷が軽微なうちに修繕する予防保全型*への本格転換が必要**です。

加えて、近年、進化するデジタル技術の積極的な活用とともに、多様化する市民ニーズにも迅速かつ適切に対応していく必要があります。

このような**環境の変化へ柔軟に対応**するとともに、「浜松市総合計画」との整合を図り、また、現行計画の方向性である「つかい・つくる・まもる」を引継ぎつつ、新たな「浜松市のみちづくり計画」を策定いたしました。

前回計画（第1期計画：平成19年度～平成28年度）

環境の変化に対応

- 新東名高速道路の開通
 - 三遠南信自動車道の部分開通
 - 人口減少・高齢化の進展
 - 南海トラフ巨大地震への備え
 - 観光・産業力の持続・強化への必要性の増加
 - 道路施設の老朽化
 - 安全な交通社会の実現への機運の高まり
 - 自然災害の頻発
- 等

現行計画（第2期計画：平成29年度～令和8年度）

環境の変化に対応

- 新東名高速道路の6車線化
 - 三遠南信自動車道の部分開通
 - 人口減少・少子高齢化の加速
 - 南海トラフ巨大地震への備え
 - 観光・産業力の持続・強化への必要性の増加
 - 道路施設の長寿命化*における予防保全型*への転換
 - 安全な交通社会の実現への機運の高まり
 - 自然災害の激甚化*・頻発化
 - DX*・カーボンニュートラルの推進
- 等

次期計画（第3期計画：令和7年度～令和16年度）

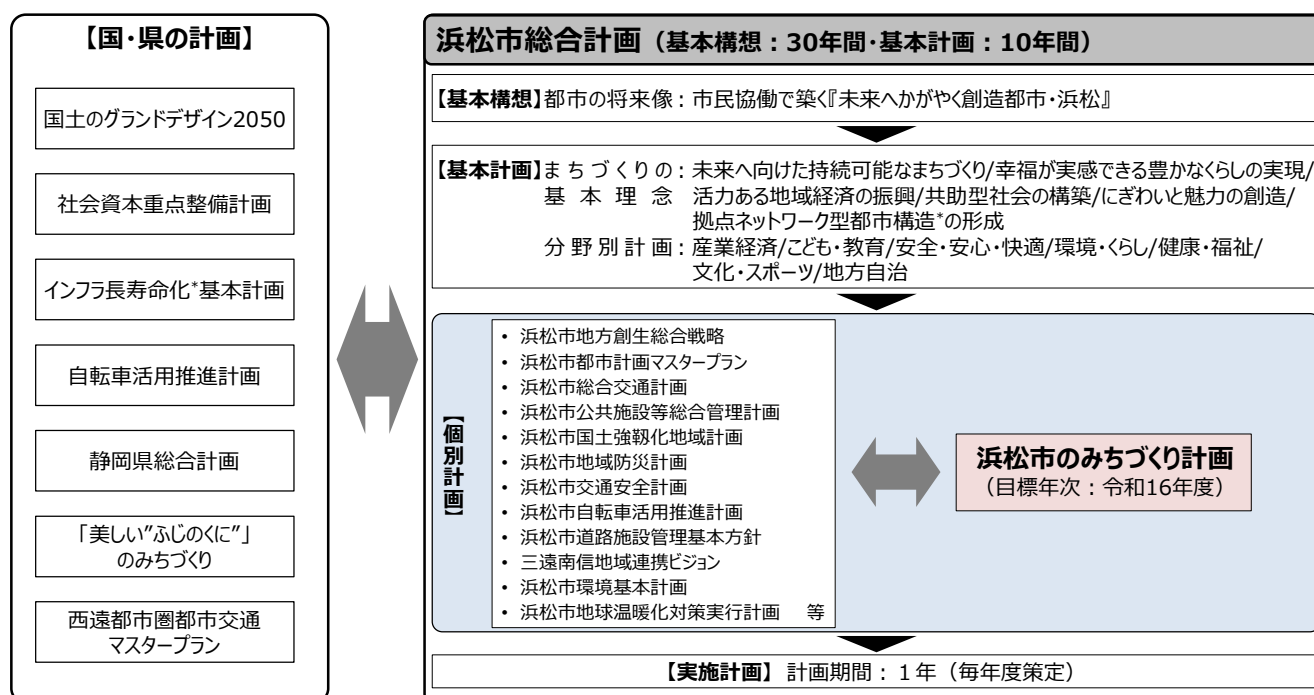
環境の変化へ柔軟に対応するため、みちづくり計画を見直します。

◆ みちづくり計画の目標年次

- 目標年次：令和16年度（2034年度）
- 計画期間：令和7年度から令和16年度までの10年間



◆ みちづくり計画の位置付け



◆ みちづくり計画の構成

「現状と課題」、「浜松市の将来像・関連計画」、「市民ニーズ」を踏まえ、『つかい・つくる・まもる』の観点から「みちづくりの方向性」を整理しました。

そして、整理した方向性に対応した「みちづくりの基本方針」を策定し、具体的な事業予定箇所を「道路整備プログラム」に位置付けました。

